

教師が身に着けるべき

4つの力

- 1 学習指導力
- 2 生活指導力・進路指導力
- 3 外部との連携・折衝力
- 4 学校運営力・組織貢献力

# なぜ、OJTは、必要なのか？

資料作成 千葉雄二

人材育成の手段3

- 1 OJT(On the job Training)
- 2 Off-JT(学校外における人材育成の取組)
- 3 自己啓発(Self-Development)

OJTとは？(On the job Training)

「日常的な職務を通して、  
必要な知識・技能、意欲、態度などを、  
意図的、計画的、継続的に高めていく取組」

OJTの実効性5

- 1 時間・場所の確保の容易さ
- 2 ニーズに応じた研修
- 3 容易な方法の改善
- 4 職務への意識向上
- 5 育成機能の連続性と継承

	学習指導力	生活指導力・進路指導力	外部との連携・折衝力	学校運営力・組織貢献力
初任者	◇児童の実態に応じた指導計画を立て授業を行うことができる。 ◇他の教員の指導から学び、自分の指導を改善できる。	◇自分の受け持つ範囲の児童の実態を把握できるとともに、伸ばすべき個性・能力を見つけられる。 ◇自分の直面する生活指導・進路指導上の問題に気づき、課題としてとらえられるとともに、他の教員に相談し解決できる。	◇保護者・地域・外部機関に必要な連絡を適時・適切にとることができる。 ◇保護者・地域・外部機関の思いを受け止め、誠意をもって対応できる。	◇決められた内容を期日までに終わることができる。 ◇前年度の資料や前任者からの情報を基に、提案文書を作成できる。
主任教諭	◇指導方法を工夫し、児童の意欲を引き出す指導、個に応じた指導ができる。 ◇他の教員の授業を参観し具体的な指導・助言ができる。	◇自校の児童の実態を把握できるとともに、個性や能力を伸ばす指導ができる。 ◇自校の生活指導・進路指導上の課題に気づき、他の教員に問題提起することができる。	◇保護者・地域・外部機関に必要な情報提供や適切な説明をすることができる。 ◇問題解決のために、保護者・地域・外部機関と円滑に連絡調整ができる。	◇提案や立案に際し、事前に他の教員と共通理解を図ることができる。 ◇校務分掌の問題点の把握と改善案の立案ができる。
主幹教諭 指導教諭	◇他者の指導上の課題をとらえ、分析・助言・提案ができる。 ◇授業改善や授業評価についての自校の実態をとらえ、問題提起をすることができる。	◇自校の潜在的な問題に気づき、課題としてとらえることができる。 ◇他の教員の抱える課題に気づき解決に向け助言ができる。	◇保護者・地域・外部機関に対し学校の考えを明確に示し、円滑な関係を築くことができる。 ◇保護者・地域・外部機関との協働について、他の教員に対し適切な指導ができる。	◇学校の課題をとらえ、校長・副校長に問題提起ができる。 ◇分掌主任・学年主任及び主幹教諭に進ちょく状況を確認しながら、全体の進行管理をすることができる。

【中心参考文献】OJT ガイドライン ～学校におけるOJTの実践～【改訂版】平成22年3月 東京都教育委員会